

平成22年11月15日『県政タウンミーティング(飯田市)テーマ:環境に配慮した地域づくりについて』における主な発言要旨及び県の考え方について

集会での発言要旨		参加者の発言に対する県の考え方	
参加者発言内容	知事等発言内容		所管課
<p>【竹宵まつり等の取り組みについて】</p> <p>竹宵まつりを今後いろいろなところに広げていきたい。いろいろな方から支援をいただいで頑張っていきたい。</p> <p>キャンドルが石油製品なので、環境にやさしい「蜜ろう」のロウソクを作った。ぜひ、使っていただきたいと思う。</p> <p>あゆみ園では、国の工賃倍増5ヵ年計画の中で「蜜ろうアップル」を作り、施設利用者の工賃アップに繋げている。</p> <p>竹宵は南信州の風物詩として定着してきている。竹やぶの竹を切り、作品を作ることでみんなから喜ばれる。キャンドルナイトのロウソクを見て、地球温暖化とか考えてほしい。</p> <p>竹やぶを竹林にするよう取り組んでいる。伐採した竹を豚の飼料にしたり、堆肥化することで有効活用している。</p>	<p><知事> どんどん他の地域にも発信していければ良いと思う。ぜひ一緒に頑張って取り組んでいきたい。</p>	<p>・県でも環境省の呼び掛けに呼応し、ライトダウンキャンペーンを推進しています。 ・蜜ろう製のロウソクを使った取組が広まるよう期待しています。</p>	<p>環境部 環境政策課 (H23:温暖化対策課)</p>
<p>【家庭用燃料電池発電機の普及について】</p> <p>燃料電池発電機は、きわめて効率が良く、排出物は水だけである。家庭用の発電機の普及を国家プロジェクトで取り組むように政府に要請すべき。設置後には雇用創出にも繋がる。ぜひ、長野県の基幹産業に育てていただきたい。</p> <p>(燃料電池発電機の)水素が竹からも取れるのであれば、竹の有効利用にもなり、循環型社会が完成するのではないかと。</p> <p>普及すれば、原子力発電所や送電線が撤去できる。風力発電とかあるが、一番効率の良いものに集中的に税金を投入すべき。</p>	<p><知事> これからの社会を考えた時に、一つの考え方・方向性としてはある。ただ、コストの問題とか水素について難しい部分もあると思う。 エネルギー問題はきわめて中央集権的な仕組みであり、もっとローカルでエネルギーを創る仕組みを考えることが重要だと思う。 どのようなエネルギーシステムが良いのかは、長野県の特長も含めて考えていきたい。</p>	<p>・燃料電池発電については様々な課題があり、さらなる技術革新が必要と認識しています。 ・どのような地域エネルギーシステムが良いのかについては、検討していきます。 なお、平成23年度は地域エネルギーの普及モデル事業を実施していく予定です。</p>	<p>環境部 環境政策課 (H23:温暖化対策課)</p>
<p>【ノーマイカー通勤、自然エネルギーへの補助について】</p> <p>CO2を削減するために、ノーマイカー通勤に取り組んでいるが、地域の方から行政関係が知らないと指摘された。もっと積極的に協力いただきたいと思う。</p> <p>ノーマイカー通勤を実施しても電車やバスがないといったことがあるので、期間中だけでも公共交通を増やすように出来ないかと。</p>	<p><知事> やるからには本気でやらなければいけないと思う。環境問題全般について、何となくやっているということでは、税金の無駄になる。やるからにはしっかり成果を出さなくてはならないし、皆さんに参加してもらうようにしたい。</p>	<p>・県下一斉ノーマイカー通勤ウィークへの県職員の参加を一層促すとともに、期間外でも知事部局職員が原則ノーマイカー通勤を行うことを検討します。 ノーマイカー通勤ウィークにおいて、一部地域でバスチャーター通勤に取り組みます。</p>	<p>環境部 環境政策課 (H23:温暖化対策課)</p>

平成22年11月15日『県政タウンミーティング(飯田市)テーマ:環境に配慮した地域づくりについて』における主な発言要旨及び県の考え方について

集会での発言要旨		参加者の発言に対する県の考え方	
参加者発言内容	知事等発言内容		所管課
<p>国をはじめいろいろな補助制度があるが、使う側に任せるものだけでなく、地域にあった自然エネルギーに対する補助を市町村向けに出すなど全体的な施策が打ち出せないか。</p>	<p><知事> 新エネルギーなどにどう取り組むかが明確になっていないので、国も県も市町村も同じことをやったり、やらなかったりすると思う。国がもう少し自然エネルギーについて、どういうスタンスでいくか出すべき。 エネルギー政策という観点では、今後の県政を考えるに当たり、しっかり取り組みたい。また、市町村との役割分担も整理しなくてはいけない。</p>	<p>・国の補助制度については、より良いものに改善するよう要請します。県が重ねて補助すべきかどうかは、国や市町村との役割分担や財政状況とのからみ合いについて検討する必要があります。</p>	<p>環境部 環境政策課 (H23:温暖化対策課)</p>
<p>【アレチウリ対策について】 地区でアレチウリの駆除を行っているが、人海戦術ではもうどうしようもない状態である。県内の他の地区で成功例があるのか。全県統一の行動日は年1回で成果はあるのか。例えば機械力、除草機を使うようにすると環境整備が出来ないのか。</p>	<p><山本環境政策課長> 全県統一行動日は、平成18年から毎年7月の最終日曜日に行っている。私も参加しているが、機械や除草剤が使えないため、やはり抜き取りが一番効果があると思われる。息長くやっていくことが必要。また、今年度は民間委託による駆除も実施している。 <知事> この間のランチミーティングでアレチウリをテーマに話をし、(統一行動に)今度私も参加することにした。やはり年1回ではなかなか難しいと思う。本当に年1回で良いのか、どうやってもっと強力にしていくのか、科学的にこういう植物が繁茂しないような仕掛けが研究できないのか、いろいろやっていかなくてはならない。</p>	<p>・伊那市の三峰川沿いでは、NPO法人三峰川みらい会議が関係団体と連携し、約10年間アレチウリ駆除活動を行い、繁茂状況が少なくなるなどの効果をあげています。 ・全県統一行動日は駆除活動をPRする日として設けています。駆除は1年に数回行うことにより効果があるため、各地域の実情に合わせて活動を行うようお願いします。 ・機械による刈り取りも効果があると言われていいますので、その効果について研究してまいります。</p>	<p>環境部 水大気環境課</p>
<p>【省エネと商店街の活性化について】 省エネで明かりを消すように取り組んでいるが、商店街は非常に寂しくなっており、暗くなっている。助成金の関係等も出てくると思うが、まちづくりについて積極的に取り組んでいただきたい。</p>	<p><知事> 重要な課題であるが、単に補助金を出すことで、問題が解決するとは思えないので、もう少し抜本的なことを考える必要があると思う。</p>	<p>商店街にぎわい再生パッケージ事業 ・市街地の賑わい創出や空き店舗対策・後継者対策のための事業を実施する中で、商店街振興に努めてまいります。</p>	<p>商工労働部 経営支援課</p>
<p>【環境対策の仕組みづくりについて】 私どもは行政や金融機関と協働して、太陽光発電の普及のため0円システムをやっている。今は補助金をいただいて運営しているが、もう少しやれば補助金がなくても出来るのではないかと思う。行政には、ぜひこういった仕組みづくりに力を注いでほしい。そのためには、県民と共に学ぶ場所や提案出来る場所がほしい。</p>	<p><知事> こうした取り組みは一緒に全県に広めたいので、相談させてほしい。行政が仕組み作れというのは、全くそのとおり。世界では環境問題について、賛否両論ある中で過激なことをやっているところもある。</p>	<p>・新たに地域の再生可能エネルギーの普及拡大に向けたモデル事業を推進します。</p>	<p>環境部 環境政策課 (H23:温暖化対策課)</p>

平成22年11月15日『県政タウンミーティング(飯田市)テーマ:環境に配慮した地域づくりについて』における主な発言要旨及び県の考え方について

集会での発言要旨		参加者の発言に対する県の考え方	
参加者発言内容	知事等発言内容		所管課
<p>【資源の有効活用について】</p> <p>自分の会社や職場全体では資源確保ということで、メモには新聞広告の裏紙使用や封筒の再利用を徹底している。家庭でもマイはしに組み入れている。名刺も半分のサイズで作っているものもある。県でもぜひ資源確保に取り組んでほしい。</p>	<p><山本環境政策課長></p> <p>県でも、紙の使用は必要最低限にするように、内部資料は裏紙を利用する等、取り組んでいるところ。</p> <p><知事></p> <p>私のところに来る紙は再利用になっていないので、徹底していきたい。長野県はまだ取り組める余地があるんじゃないかと思う。</p>	<p>・県では、職員率先実行計画を策定し、環境マネジメントシステムで進行管理を図っているところです。</p> <p>・この中で、裏紙利用の徹底にも取り組んでいます。</p>	<p>環境部 環境政策課 (H23:温暖化対策課)</p>
<p>【環境教育について】</p> <p>豊かな環境を作るには、小さい頃から心を育むことが必要。知事部局に教育的な部局を作ると聞いているが、長野県独自の環境教育といった視点で徹底的にやる必要があるではないか。</p>	<p>農山村体験学習は、いろんなところから子ども達が来ているが、実は足元(県内)の子ども達が十分体験できていないと思うので、せっきくの環境を活かす方向で考えていきたい。</p>	<p>子ども農業体験活動支援事業</p> <p>・平成23年度からNPO・農業団体等が県内小学生を対象に年間を通じた農業体験を実施する中で、ご意見の主旨が反映されるよう努めます。</p> <p>・県内の学校林で森林等の育成を行っている小中学校は39%、地域との連携で森林について学んでいる小中学校が42%あります。学校の所在地が山間地、市街地によって取組が異なるものの、長野県では多くの学校で森林教育が行われており、教育委員会としてもさらに充実していくよう教職員への研修内容の充実を図っていきます。</p>	<p>農政部 農業政策課</p> <p>教育委員会事務局 教学指導課</p>
<p>【シカの有効利用について】</p> <p>山にいるシカの実態を調べて、撃ち殺すだけでなく、食料として利用すべき。そうすることで森を守り、水を守ることになる。</p>	<p><知事></p> <p>県でもジビエということで取組を始めている。大鹿村のシカ肉カレーのように有効に利用していくことを考えたい。それから、もっと本質的なところ、森林整備との関連性とか、森をしっかりと育てることによって鳥獣も出てこない部分もあると思うので、セットで考えていきたい。</p>	<p>・県では定期的に行うシカの生息数調査を基に、シカの特定鳥獣保護管理計画を策定しています。この計画の中で捕獲目標を定め、必要な捕獲を行うとともに、被害防除対策などの総合対策を行っています。総合対策の1つである捕獲したシカの有効利用を図るジビエ振興対策についても、関係機関と連携しながら引き続き進めてまいります。</p>	<p>林務部 森林づくり推進課 野生鳥獣対策室</p>
<p>【リデュース、リユースの推進について】</p> <p>循環型社会で3Rを推進しているが、リサイクルを目当てにするのではなく、リデュース、リユースを推進してほしい。</p>	<p><知事></p> <p>リサイクルを残さなくてはならない部分もあると思うが、リデュース、リユース中心に発想することには共感する。これから廃棄物処理計画をやるが、そもそも出さないことが重要という点は念頭において考えたい。</p>	<p>資源循環システム構築事業</p> <p>・3R関連事業を実施する中で、ご意見の趣旨が反映されるよう努めます。</p>	<p>環境部 廃棄物対策課</p>